



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 11月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.189 2022.11

紹介内容 (10/1~10/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 栗原農改：第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
 - 大崎農改：第1回大崎地域農業改良普及活動を開催しました
 - 仙台農改：管内2か所でJA新みやぎあさひなぶどう部会講習会のシャインマスカットの販売会が開催されました
 - 大崎農改：新規就農者巡回を行いました
 - 栗原農改：先進農業体験学習が無事終わりました
 - 仙台農改：農業大学校先進農業体験学習の修了式が開催されました
 - 仙台農改：JA仙台大豆生産部会協議会が開催されました
 - 仙台農改：宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会で5点が入賞しました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ収穫作業見学・栽培研修会が開催されました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 大崎農改：先進農業体験学習に取り組む農業大学校生の巡回指導を行いました
 - 登米農改：登米市農業士会経営向上検討会が開催されました
 - 仙台農改：令和4年度女性農業者活躍支援研修会を開催しました
 - 登米農改：新規就農者をマイスター農業者が支援しています
 - 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました
 - 美里農改：農業大学校の先進農業体験学習が無事終了しました
 - 亘理農改：農業大学校の先進農業体験学習修了式が開催されました
 - 大河原農改：農業大学校生の先進農業体験学習が終了しました
 - 石巻農改：石巻管内での農業大学校体験学習が終了しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・ 7
 - 石巻農改：パブリカの産学連携によるスマート農業への取り組みが行われています
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 亘理農改：鳥の海ふれあい市場でシャインマスカット販売会が開催されました
 - 石巻農改：園芸振興を図るため関係機関で会議を開催しました！
 - 登米農改：登米市内でリンゴの収穫が始まっています！
 - 亘理農改：やまもとファームみらい野でさつまいも栽培講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：気仙沼合同庁舎食堂にてカーリーケールを使用した一品が提供されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米アグリフェスタで農林産物品評会が開催されました
 - 石巻農改：石巻産オリーブオイルが今年も生産されます！
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：いちご本ぽ管理勉強会を開催しました

- 亘 理農改：カーネーション IPM・産地表示販売検討会を開催しました
 - 栗 原農改：スナックえんどう栽培講習会を開催しました
- ⑤ **収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 美 里農改：第 12 回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて県代表牛の最終集合指導会が開催されました
 - 栗 原農改：飼料用とうもろこしの収量調査を行いました
 - 登 米農改：牛群検定の「お試し検定」をサポートしています
 - 仙 台農改：農業組合法人うえずとファーム仙台による先進地研修
- ⑥ **時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 美 里農改：「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：「葎の華」の敵期刈り取り研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：南三陸米の新米出荷が始まりました
 - 大 崎農改：大崎市「ささ結」新米試食会が開催される
 - 亘 理農改：宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会で 10 点が入賞しました
 - 農業振興課：令和 4 年度農林産物品評会が開催されました
- ⑦ **地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 気仙沼農改：実りの秋を迎えた田んぼアート
 - 仙 台農改：秋保野尻地区で長ネギの収穫体験が行われました
 - 気仙沼農改：気仙沼ウェルカムターミナル産地直売所で勉強会が開催されました
 - 大 崎農改：えごまの生育調査を行いました
- ⑧ **環境に配慮した持続可能な農業生産**・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 気仙沼農改：水稲ペースト 2 段施肥の検討会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
令和4年10月4日
栗原農業改良普及センター



令和4年9月12日(月)、栗原市金成のシャインマスカット栽培園地で、「第2回シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

栗原地域では、水稻育苗ハウスを活用したシャインマスカット等のぶどう栽培が行われており、新たな園芸品目として平成30年度から園芸振興を目指す栗原圏域産地戦略プランの重点振興品目に位置付けられています。

今回の研修では、「収穫期の見極め」、「長期貯蔵技術の可能性」及び「裂果の原因と対策」に係る技術の習得を目指し、シャインマスカットをすでに導入している生産者及び今後導入意向のある方々、合わせて32名が集まりました。

始めに、「収穫期の見極め」として、カラーチャート及び糖度計の活用、食味のポイントを説明したあと、「長期貯蔵技術」の可能性について紹介しました。また、例年、問い合わせの多い「裂果」について、その原因と対策を資料を用いて解説しました。

その後、地域でも早期にシャインマスカットを導入し、栽培経験を積み重ねている田中学さんを講師に、これまでの管理状況を説明いただいたあと、直売や贈答における販売様態について情報提供いただきました。

参加者からは、日頃の管理作業で迷っている点や

疑問に感じている部分についてたくさんの質問が出され、シャインマスカット栽培への高い関心が伺えました。

本研修会は年間3回を予定しており、次回は整枝せん定実習をする予定です。

○第1回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました。
令和4年10月5日
大崎農業改良普及センター



9月7日第1回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、当所の活動が農業者や地域住民に理解され、効率的で効果の上がる普及指導活動を推進するために外部委員に御意見をお伺いするものです。

本年度は、プロジェクト課題 No. 3「直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売」で支援している大崎市岩出山地区のぶどう栽培園地において現地検討会を実施しました。委員からは短梢剪定による省力的な栽培方法の支援等の取り組みを評価していただきました。

各課題の検討では、地域の課題に地域の方々と連携して取り組むこと、生産者の所得確保の視点に着目した御意見がありました。地域課題の掘り起こしや、関係者とともに計画的に課題解決に取り組むことの重要性、着実に所得確保に繋がる普及活動が改めて重要と感じました。今後の普及活動に活かしていきます。

○管内2か所で JA 新みやぎあさひなぶどう部会のシャインマスカットの販売会が開催されました
令和4年10月7日
仙台農業改良普及センター

JA 新みやぎあさひなぶどう部会が主催となり、9月24日(土)にJAグリーンあさひな(大和町)、10月2日(日)に元気くん市場仙台南店(仙台市太白区)において「シャインマスカット販売会」を開催しました。

参加した生産者は、自分たちが丹精込めて作ったシャインマスカットの品質や甘いぶどうの見分け方などを紹介し、お客様も楽しそうに見比べながら購入していました。

普及センターでは、シャインマスカット栽培の取

組紹介パネルの展示とともにパンフレットを配布して、産地PRを行いました。

両日とも開店前から行列ができる盛況ぶりです。消費者からは「来年もぜひ開催してほしい」との要望があり、生産者も「これからも良いものを作っていきたい」と嬉しそうに意欲をのぞかせていました。

普及センターでは、今後も技術支援や産地のPR等により、当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。



○新規就農者巡回を行いました 令和4年10月11日 大崎農業改良普及センター



令和4年10月4日と5日の2日間にわたり、加美町の担当者とともに農業次世代人材投資事業（経営開始型）の交付対象となっている新規就農者の巡回を行いました。

今回は野菜生産者6名と畜産（酪農＋繁殖）1名を対象に巡回し、就農計画の達成状況や営農状況の確認を行いました。

野菜作の生産者の多くは7月の大雨による水害や肥料代の高騰、畜産では飼料代高騰や仔牛価格の低迷など例年よりもかなり厳しい状況下での営農となっているため、今後の対策などを中心に意見交換を

行いました。

普及センターでは、今後も加美町や関係機関とともに新規就農者の経営が安定し地域に定着できるよう支援を行っていきます。

○先進農業体験学習が無事終わりました 令和4年10月17日 栗原農業改良普及センター

9月5日から始まった宮城県農業大学校の33日間の先進農業体験学習が無事終了しました。この体験学習は、技術の向上のみならず、学生が人や地域とのつながりを作ることを目的とし、先進農業者のもとで行われています。今年度、栗原管内では4名の学生が4つの農業法人で研修しました。

10月7日に開催した終了式では、学生が「現場を肌で感じる事ができた」「楽しく仕事をした」などと感想を述べるとともに、受け入れ農業法人からは「明るく前向きに仕事をしてくれた」「主体的に仕事に取り組む姿勢は従業員の刺激にもなった」など高く評価していただき、期待した以上に成長した姿を見ることができました。

また、今回で5回目の学生を受け入れていただいた農業法人には農政部長から、初めて受け入れていただいた農業法人には農業大学校校長から感謝状が贈られました。他の2つの農業法人についても、先進農業体験学習の意義を理解し、複数回受け入れていただいています。

普及センターはこれからも研修教育機関と連携して、農業を目指す志のある若者を支援していきます。



○農業大学校先進農業体験学習の終了式が開催されました 令和4年10月17日 仙台農業改良普及センター

宮城県農業大学校の1年生58名のうち15名が、9月5日（月）から10月7日（金）までの33日間、仙台農業改良普及センター管内の農業者13名のもとで先進農業体験学習を実施し、10月7日に仙台合同庁舎会議室において終了式が行われました。終了式には、学生と体験学習を受け入れた農業者の方が参加しました。

学生からは「短い期間に様々な体験をさせていただき感謝している」「教えていただいたことをこれから活かしていきたい」「命をいただく大切さを学んだ」

「農作業以外にもいろいろ教えていただいた」などの感謝の言葉があり、農業者からは「体験学習期間中に学生の成長を感じた」「頑張ってくれたことがうれしい」「今後壁にぶつかることがあったら相談に来てほしい」など、学生の頑張りに対する労いやこれからの活躍に期待する言葉がありました。

普及センターでは、今後ますます充実した学生生活を送れることを期待するとともに、卒業後の就農を支援していきます。



**○JA 仙台大豆生産部会協議会が開催されました
令和4年 10月 21日
仙台農業改良普及センター**

J A 仙台管内では、今年度約 1,100ha の大豆が栽培されています。今作は、天候不良による播種の遅れや7月中旬の大雨による浸冠水があり、生育への影響が懸念されましたが、莢付きも良く、概ね順調な生育となっています。

大豆の落葉が始まり、まもなく収穫時期を迎えることから、平成4年 10月 18日に、大豆を栽培している生産法人及び生産組織の代表 28人が参集し、第1回 J A 仙台大豆生産部会協議会が開催されました。

協議会では、全農宮城県本部から大豆の販売情勢について報告されたほか、J A から大豆センターの荷受け体制や利用料金などについて説明がありました。普及センターからは、大豆の生育状況や収穫作業における汚損粒防止のための留意点を説明し、改めて収穫作業の基本を確認しました。

11月に入ると収穫作業が本格化すると思われます。普及センターでは、今後も巡回指導等を通し、上位等級の確保に向けて支援していきます。

**○宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会で5点が入賞しました
令和4年 10月 26日
仙台農業改良普及センター**



令和4年度宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会が開催され、令和4年 10月 22日(土)～10月 23日(日)にせんだい農業園芸センターで展示されました。

今年もコロナ禍で、昨年に引き続き展示のみの開催となりましたが、当普及センター管内からは、農産物 22点及び花き 11点が出品されました。農産物は、今年は3点が入賞し、ぶどう部門では初の入賞となりました。また、花きは2点が入賞しました。

県内各地から品質の高い農産物や花きが出品された中、次の方々が入賞されました。

普及センターでは、優秀な農産物等の生産に向けて技術指導を展開していきます。

	受賞名	受賞者氏名	住所	作物名	品種名
農林産物品評会	宮城県知事賞(2等)	ムラヤマファーム	大槻町	ぶどう	シャインマスカット
	宮城県園芸協会会長賞				
	宮城県知事賞(2等)	マキシマファーム(株)	松島町	トマト	機太郎ニート
花き品評会	宮城県知事賞(3等)	相澤 幸雄	大和町	ねぎ	大沢の馬き
	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞・金賞	佐藤 清敬	仙台市	ピオラ	ももか
	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞・銀賞	佐藤 敏充	多賀城市	パンジー	キューティージェラート



**○枝もの用クロマツ収穫作業見学・栽培研修会が開催されました
令和4年 10月 26日
気仙沼農業改良普及センター**

令和4年 10月 24日、南三陸町を会場に県とみやぎクロマツ研究会の共催による枝もの用クロマツ収穫調製作業見学・栽培研修会が開催されました。

参加者は、クロマツを栽培している株式会社南三

陸 Pine Pro (以下パインプロと略す) の関係者 4 名、
県内クロマツ栽培者及び栽培希望者 12 名、県・市町
関係者 21 名の合計 37 名でした。

研修会では、クロマツ収穫作業、収穫後の調整作業
(枝葉除去、規格選別)、保管作業の各工程について、
それぞれ説明を受け、その都度質疑応答が行われま
した。

特に出荷のための枝葉除去作業、規格選別作業に
ついて多くの質問が出され、繰り返しパインプロ関
係者から回答され熱のこもった質疑応答となりました。

実際に収穫されたクロマツを教材に、枝葉除去作
業や規格選別作業を見学したことで、参加者の理解
が深まりました。

普及センターでは、今後もクロマツ生産とパイン
プロの運営支援を継続的に行っていきます。



枝葉を除去する調製作業の説明

②新たな担い手の確保・育成

○先進農業体験学習に取り組む農業大学校生の 巡回指導を行いました

令和4年 10 月 3 日

大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センター管内では、宮城県農業
大学校生 4 人が 9 月 5 日から約 1 か月間、農業者の
もとで生産技術や経営管理を学ぶ「先進農業体験学
習」を行なっています。学生を受け入れている農業者
は、指導農業者など、農業の各分野を牽引している
方々です。

9 月 21 日には、農業大学校の職員とともに各学

習先を訪問し、学生の学習状況の確認と指導を行な
いました。どの学生も意欲的に学習に取り組んでい
ました。

10 月の終了式では、さらにたくましくなった姿
を見せてくれることを期待しています。

普及センターでは、今後も地域の新たな担い手の確
保・育成に取り組んでまいります。

○登米市農業士会経営向上研修会が開催されま した

令和4年 10 月 3 日

登米農業改良普及センター

登米市農業士会では会員個々の経営発展を目的と
して、令和4年9月9日(金)に、相互に経営状況を
視察する経営向上研修会を開催しました。併せて、地
域の農業後継者である4Hクラブ員や宮城県農業大
学校の学生を研修会に招き、意見交換を実施しまし
た。

当日は、登米市農業士会長であり、繁殖牛経営を行
っている大立目氏の畜舎や、青年農業者の近藤氏及
び阿部氏の生産施設やほ場を見学しました。

大立目氏は牛を観察することの重要性や自給飼料
生産へのこだわりについて、近藤氏は従来から不安
定だった大豆生産を中止して飼料米に変更した経営
判断について、阿部氏からは主食用米の収益性低下
と園芸部門の拡大について説明いただきました。

参加した農大生からは、就農後のビジョンや研修
に期待することなどの発言があり、農業者からはそ
れらに対して、家畜や作物をよく観察すること、ま
ずは自分の興味のあることを何でもやってみること、
最初から大きな投資はしないことなど、経験に基づ
く助言がありました。

普及センターでは、世代を超えた農業者の交流に
ついて引き続き支援していきます。



○令和4年度女性農業者活躍支援研修会を開催 しました

令和4年 10 月 12 日

仙台農業改良普及センター

令和4年9月12日(月)に東北大学農学部を会場
に仙台農業改良普及センター管内10市町村のJA組
織、農業委員会等でリーダーとして活躍している女
性農業者の方々を対象に「令和4年度女性農業者活
躍支援研修会」を開催しました。

リーダーとして活躍している女性農業者の共通の
課題は、新たに参画する女性農業者が少ないことに

あります。そこで、経営参画や地域農業の方針決定の場への女性農業者の参画を推進するために必要な支援策について講演等を通じて学びました。

「女性農業者が輝く農業創造のための提言について」と題した日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科教授川手督也教授の講演では、以前は、農業や家庭運営で従来女性の担ってきた仕事を正当に評価すること等で、女性の社会的地位向上を図ってきたが、今は、時代の変化も踏まえ、家庭内での女性の地位向上という視点以上に、農業経営、つまり働き方改革やワーク・ライフ・バランスに重点を置き、経営発展や経営戦略の確立に資するという視点で、女性農業者の位置づけを明確化する必要があるとの話に加え、依然として地域に埋もれている女性達が多数存在しており、「見つけて、位置づけて、つなぐ」ことが必要になっているとの講話がありました。

参加者からは、「女性農業者が活躍するためには、『家の理解』『男性の意識改』が必要」、「若い人が魅力を感じるような仕組みづくりが必要」等の意見が出され、今回の研修会を通じ、女性農業者育成の重要性が共通認識として醸成されました。

仙台農業改良普及センターでは、今回の研修会を基に次世代の女性農業者育成に取り組んでいきます。



○新規就農者をマイスター農業者が支援しています

令和4年 10月 12日
登米農業改良普及センター

登米市では、新規就農者の早期の生産技術習得や経営安定化等を目的に、熟練農業者をマイスターとして派遣し、個別技術指導により基本的な管理技術等について学ぶ「登米農業マイスター制度」を実施しています。

令和4年度は、新規就農者の後藤舞結さん（米山町）がマイスターである加藤桂一さん（株式会社グリーンライズ代表取締役）から加工用トマトの栽培管理や収穫作業について指導を受けました。また、同じく

佐々木正記さん（南方町）が千葉啓さん（JAみやぎ登米肉牛部会長）から和牛の繁殖管理や飼養管理等について指導を受けました。

指導を受けたお二人は、マイスターから技術を直接学べただけでなく、先輩農家との人脈を作ることができたと感想を述べていました。今後も普及センターでは、市やマイスターと連携し、新規就農者の技術向上を支援していきます。



加工用トマトの収穫技術指導



繁殖から肥育までの飼養管理技術指導

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が終了しました

令和4年 10月 13日
登米農業改良普及センター

令和4年9月5日から10月7日までの33日間、宮城県農業大学校の先進農業体験学習が実施されました。当研修は、農業大学校の一年生が先進的な農業者のもとで農業技術や農業経営のノウハウを学ぶとともに農村生活を体験するもので、当管内では地元出身者5人を含む7人が学習しました。

研修実施前は緊張した表情だった学生も、9月26日、27日に巡回指導した際は、生き活きとした表情で研修に取り組む姿がうかがえ、10月7日の修了式ではたくましくなった学生の姿がみられました。

修了式では、学生から「牛の種付けを初めて体験した、貴重な経験になった」、「思い返すと短く感じた、研修が終わりさみしい思いもある」、「家族の支えの大切さも知った、研修はとても幸せな時間だった」などの感想が述べられました。また、受入農家の方々からは、「センスがあり、作業の覚えも早く優秀な学生だ」、「今すぐにもうちで就農してほしいぐらいだ」など、どの学生も高い評価をいただき、「今後の人生で迷うことがあったら頼ってほしい」、「将来就農したら引き続き支援していきたい」といった心強い言葉をいただきました。

今年の学生のほとんどは親の農業経営への参画を希望しており、この体験学習の経験を活かし将来の目標に向かって勉学に励んでほしいと願います。



○農業大学の先進農業体験学習が無事終了しました
令和4年 10月 13日
美里農業改良普及センター

9月5日から10月7日までの33日間、宮城県農業大学校1年生の先進農業体験学習が実施されました。美里地域では、地元出身者を含む8名が、先進的な農業経営を行っている農業者のもとで研修しました。

開始式では、緊張から不安げな様子であった学生も、研修が進むにつれて明るく生き生きした表情に変わり、研修終了時には、研修をやり遂げ、たくましくなった姿が伺えました。



終了式では、学生から「初めてのことでばかりで戸惑いもあったが、丁寧に教えていただきスキルアップにつながった。」「一生に一度できるかどうかの貴重な体験をさせていただいた。」等のお礼の言葉が述べ

られました。受入農家からは「1か月でこんなに成長するのかと実感した。」「家族と同じように一所懸命に働いていた。この経験を活かし目標に向かって頑張りたい。」など、学生の頑張りに対する感謝やこれからの活躍に対する励ましの言葉がありました。

普及センターでは、これからも教育機関と連携して、新規就農を目指す志のある若者を支援して参ります。



○農業大学の先進農業体験学習修了式が開催されました
令和4年 10月 14日
巨理農業良普及センター



9月5日から10月7日までの33日間、宮城県農業大学校1年生の先進農業体験学習が実施されました。巨理普及センター管内では、地元出身者を含む13名が、先進的な農業経営を営む農業者や農業法人で研修しました。

研修当初には、不安な表情であった大学校生も、研修が進むにつれて明るく生き生きした表情に変わりました。10月7日の先進農業体験学習終了式では、表情が引き締まりたくましくなった姿が伺えました。大学校生から「丁寧に教えていただいた。」「これからの自分の勉強に活かしたい。」などのお礼の言葉がありました。

終了式には、受け入れ先の方々にも参加いただき、「学校とは違う環境での研修で戸惑いもあったと思うが、よく頑張っていた。」「この経験を活かし目標に向かって頑張りたい。」など学生の頑張りに対する労いやこれからの活躍に対する励ましの言葉をいただきました。

最後に、受入れ回数が10回と初回の経営体の方々に、宮城県から感謝状が贈られました。

なお、11月25日には農業大学校名取教場で先進農業体験学習発表会が開催されます。

○農業大学校生の先進農業体験学習が終了しました！

令和4年10月14日

大河原農業改良普及センター



10月7日に大河原合同庁舎で、農業大学校が主催する先進農業体験学習の終了式が開催されました。大河原管内では農業大学校の1年生4名が、約1ヶ月先進的な農業経営を実践されている農業者のもとで、農業技術や特色ある農業経営を学習しました。

学生からは「将来農業経営者になるにあたって、もっと経営面の勉強が必要だと感じた」「最初は慣れなかった農作業も徐々に出来るようになり、自信に繋がった」「素晴らしい経営体の元で農作業できたことは今後の糧になる」などの感想が述べられました。

普及センターでは、今回の学習経験が将来における営農等に繋がるものと期待しています。

○石巻管内での農業大学校体験学習が終了しました

令和4年10月17日

石巻農業改良普及センター



令和4年10月7日に、令和4年度農業大学校先進農業体験学習終了式が行われました。

今年度は3人の学生が、石巻市及び東松島市の農業法人で、酪農の飼養管理や野菜の大規模生産、稲作から農産加工など、33日間の研修を受けました。

学生からは研修先への御礼とともに、「人間的にも成長できたことを実感している」「目標としていた内容を達成することができた」といった、充実感をもつ

て研修への思いを述べていました。受入した法人の代表者からは「積極的な姿勢が見られ、こちらにも新しい視点ももらい、良い刺激になった」「研修を通して、私生活も含め、成長を感じた」といった声が聞かれました。

当普及センターでは、引き続き農業大学校と連携した農業研修教育や就農支援を行います。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○パプリカの産学官連携によるスマート農業への取り組みが行われています

令和4年10月20日

栗原農業改良普及センター



宮城県はパプリカの出荷量が全国1位で、中でも栗原市は農業法人による大規模施設での養液栽培がおこなわれており、県内最大の産地となっています。

昨年度から、栗原市と石巻市のパプリカ生産法人、民間企業、大学、県をはじめとした行政機関等の17組織が参画し、スマート農業技術を使用して宮城県産パプリカのブランド力向上やスマート商流の実現に向けたプロジェクトが進められています。



10月4日、このプロジェクトの技術実証ほ場のひとつ、(株)ベジ・ドリーム栗原(栗原市高清水)でプロジェクトの構成員が集まり、開発中の収量予測ロボットや選果・出荷管理システム、パプリカ個包装機械の現地視察を行いました。収量予測ロボットが畝間を自動走行しながらカメラで撮影した画像をAIが解析して収穫時期や収量予測の様子や、個包装機械でパプリカが包装される様子を視察し、プロジェクトの進捗状況を確認しました。

引き続き、生産量やニーズの変化に対応できる体制の確立に向け、生産法人と産学官が一丸となって、パプリカのスマート商流の実現に取り組むこととされています。



当日は多くのお客様に来場いただき、約 130 房のシャインマスカットが2時間で完売しました。

普及センターでは、今後も技術支援や産地の PR 等により、当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。



④園芸産地の育成・強化支援

○鳥の海ふれあい市場でシャインマスカット販売会が開催されました
令和4年 10 月 5 日
亘理農業改良普及センター



亘理農業改良普及センターでは、シャインマスカット栽培技術の品質向上と省力化及び産地としてのイメージ定着を目的に、プロジェクト活動に取り組んでいます。その一環として、亘理町内にある直売所「鳥の海ふれあい市場」と当普及センターの共催で、令和4年9月29日に亘理町のシャインマスカット生産者3戸による合同販売会を開催しました。



○園芸振興を図るため関係機関で会議を開催しました！
令和4年 10 月 12 日
石巻農業改良普及センター



令和4年9月27日に石巻合同庁舎において、令和4年度第2回石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。この会議は石巻市、東松島市及びJ A いしのまき等関係機関の担当者が出席し、石巻地域の園芸振興策等を協議する場となりました。

今回の会議では、振興品目の中のばれいしょ、さつまいも、いちご、ねぎについて議論を行いました。

ばれいしょは作付面積及び生産者が増加していますが、本年は7月中旬の大雨により甚大な被害を受けたため、収量は予定の3分の1から～2分の1にとどまりました。しかしながら、次年度にも新たな生産者が増加する予定であり、関係機関一体となり推進を図っていくこととなりました。

さつまいもは加工向けの取り組みが定着しつつあり、管理機械を導入した法人も出てきています。県内他地域の先進的な取り組みの情報収集も行いながら推進を図っていくこととなりました。

いちごは他作物と同様に生産者の高齢化が進んでいるものの、環境モニタリングであったり、環境制御を行う機器の導入であったり、栽培管理の向上を図る取り組みが進んでおり、産地として収量アップを目指して推進していくこととなりました。

ねぎについては、近年新規就農者が取り組む事例

が増えており、技術の向上や担い手の定着に向けての検討を行いました。

今後も関係機関と緊密に情報共有を図りながら、石巻地域の園芸特産振興を進めていきます。

○登米市内でリンゴの収穫が始まっています！ 令和4年10月17日 登米農業改良普及センター



登米市は県内でもりんごの生産が盛んな地域で、9月上旬から早生品種の収穫が始まり、順次多様な品種が収穫されています。特に今年は果実肥大も良好で、生産者の努力により甘くておいしい完熟りんごが出荷されています。

また、当管内では若手生産者を中心に先進的な技術である「りんご樹体ジョイント栽培」の導入が進んでいます。樹体ジョイント栽培は、接ぎ木の技術を利用して複数樹を連結させた直線状の樹形で栽培する方法で、従来の仕立て方と比べて早期成園化や作業の省力化が図られる技術です。当管内では平成29年に初めて導入され、年々ジョイント栽培の導入面積が増えています。令和2年に導入した園地では写真のとおり順調に生育が進み、今年から収穫が始まります。

当管内で生産されるりんごは、市内の直売所や生産者の庭先の販売所で購入することができます。是非皆さんも登米市産りんごを味わってみてください。

○やまもとファームみらい野でさつまいも栽培講習会が開催されました 令和4年10月18日 亘理農業改良普及センター

令和4年10月4日に山元町の株式会社やまもとファームみらい野を会場に県園芸推進課が主催するさつまいも栽培講習会が行われ、亘理管内を始めとする県内のさつまいも生産者、関係団体、関係普及センター等47名が参加しました。

講習会では、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターの研究員の方々が、育苗の基礎技術、土壌病害であるさつまいも基腐病の対策、さつまいもの適切な保管方法、キュアリング技術について講習しました。また、県園芸推進課担当者から、苗の生産時における許諾申請の手続きについて説明しました。

さつまいもはさつまいも基腐病の感染等の影響で全国的に作付面積が激減、産地が西日本から東日本に移行してきており、東北地方では増加してきてい

ます。

普及センターでは、今後も生産者、関係機関と連携し、安定した生産体制の確立に向けて支援してまいります。



○気仙沼合同庁舎食堂にてカーリーノケールを使用した一品が提供されました 令和4年10月19日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年10月3日、地域農産物のPR活動の一環として、気仙沼合同庁舎食堂にて南三陸町産のカーリーノケールを使用した一品が提供されました。カーリーノケールとは、アブラナ科の一種であり、ケールなのに苦みや青臭さが比較的少なく、キャベツと比較するとミネラルやビタミンが豊富な葉物野菜です。

今回使用されたカーリーノケールの生産者である南三陸町の星達哉さんは、小松菜を中心とした葉物野菜の栽培を行っています。令和3年度からカーリーノケールの栽培を開始し、現在は栽培面積50aまで作付けを拡大しています。

当日はカーリーノケールをもやしと卵で炒めた料理が小鉢で提供されました。食堂の調理スタッフのアイデアで、カーリーノケールの食感が残るよう適度に火通しされており、加えて卵との相性も抜群であり、多くの食堂利用者が物珍しさに驚きながらも完食していました。食べた人からの評価は高く、また食べたいたの声が聞かれました。今回の活動により、食を通じて地域の農産物の魅力を発信することができました。

星達哉さんが生産するカーリーノケールは、「みやぎ生協」や「道の駅三滝堂」など県内各地に出荷されているほか、「伊勢丹」など県外デパートにも出荷され

ています。管内では JA 新みやぎ気仙沼農産物直売所「菜果好」で販売されています。店頭で見かけた際はぜひお手に取っていただけますと幸いです。



○JA みやぎ登米アグリフェスタで農林産物品評会が開催されました
 令和4年 10月 20日
 登米農業改良普及センター

令和4年10月16日(日)に登米祝祭劇場でJAみやぎ登米アグリフェスタ農林産物品評会が開催されました。当品評会は、新型コロナウイルスの影響で令和2年度以降は開催されなかったため、今年は3年ぶりの開催となりました。

品評会には、野菜の部 317点、花きの部 455点、果樹の部 29点、菌茸の部 5点、その他特産物 9点、合計 815点が出品されました。7月中旬には記録的な大雨に見舞われるなど気象の影響が大きい中、多くの農作物が出品され、いずれも甲乙つけがたい出来栄でした。審査の結果、金賞 10点、銀賞 17点、銅賞 17点が選定されました。当日は天候に恵まれ、多くの来場者でにぎわい、品評会出品物の販売会や地場産品食材市場が開かれるなど、地場農産物の質の高さを地元消費者等に広く知っていただく良い機会となりました。

品評会には、野菜の部 317点、花きの部 455点、果樹の部 29点、菌茸の部 5点、その他特産物 9点、合計 815点が出品されました。7月中旬には記録的な大雨に見舞われるなど気象の影響が大きい中、多くの農作物が出品され、いずれも甲乙つけがたい出来栄でした。審査の結果、金賞 10点、銀賞 17点、銅賞 17点が選定されました。当日は天候に恵まれ、多くの来場者でにぎわい、品評会出品物の販売会や地場産品食材市場が開かれるなど、地場農産物の質の高さを地元消費者等に広く知っていただく良い機会となりました。



○石巻産オリーブオイルが今年も生産されます！
 令和4年 10月 26日
 石巻農業改良普及センター

令和4年10月19日(水)に、石巻市北限オリーブ研究会主催でオリーブ果実の収穫、搾油が行われました。

最高級品のオリーブオイルであるエキストラバージンオイルを製造するには、着色前の緑果(写真Aのオリーブ)を収穫・選果し、その日のうちに搾油を行う必要があります。このため、当日は収穫から搾油までの一連の作業がスムーズに行えるよう収穫と選果、搾油の各班に分かれて作業が行われました。

石巻市では平成26年からオリーブの栽培が行われています。栽培面積は令和4年3月時点で約4haとなっています。当初密植で植栽したほ場では、今春以降、樹冠の拡大に伴い移植され、面積が拡大されています。

今後、樹齢が進み、収量向上が見込まれ、本格的に生産されますので、御期待ください。



○JA 新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会 が開催されました 令和4年 10月 28日 仙台農業改良普及センター

JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が10月24日に開催され、部会員5人が参加しました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら、収穫を目前に控えた「ふじ」を中心に、生育状況や今後の管理等について参加者相互に確認し合いました。生育は、総じて着果数がやや多いものの果実肥大は良好でしたが、日陰となる枝に「小玉果・青実果」が見られたほか、一部の園地において病害虫の発生も見られました。

普及センターからは、小玉果の摘果や葉摘み・結果母枝の管理による着色管理を指導したほか、それぞれの園地で課題となる病害虫の確認と、次年産の防除暦を検討する上での防除実績の提出をお願いしました。

当日は晴天に恵まれ、果実の着色度合いや枝の混み具合などが良く見ることが出来て、相互に今後の管理や問題点等について意見が出された有意義な検討会となりました。

普及センターでは、今後も情報提供や技術指導を行い、JA新みやぎあさひな地域のりんごの安定生産を支援していきます。



○いちごの本ぽ管理勉強会を開催しました 令和4年 10月 31日 亘理農業改良普及センター

令和4年10月26日にいちごの本ぽ管理勉強会（みやぎ農業未来塾）を開催し、管内の若手生産者を中心に42名が参加しました。

始めに、JAみやぎ亘理・亘理山元いちご選果場を会場に普及センターからいちごの生理特性に基づいたハウス内の環境管理について、農業・園芸総合研究所から所内のいちごの栽培状況や今後の管理、いちごに関する試験成績について情報提供を行いました。

その後、株式会社やまもとファームみらい野に移動し、いちご栽培ほ場の視察を行いました。栽培担当の齋藤氏から、耕種概要等を説明いただき、その後は生産者同士で情報交換を行いながら、現在栽培しているいちごの生育状況を確認しました。

普及センターでは、いちごの産出額増加に向けて今後も管内のいちご生産者同士の交流を図っていきます。



○カーネーション IPM・産地表示販売検討会を開催しました 令和4年 10月 31日 亘理農業改良普及センター

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用する等、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM（総合的病害虫雑草管理）と、消費者が産地名を認識して切り花を購入することができるよう販売段階で産地名を表示する産地表示販売の実証に取り組んで

います。

普及センターでは、令和4年10月26日に、カーネーションIPM・産地表示販売検討会を名取市高柳集会所等で開催し、取組の今年度上半期の実証結果を生産者と関係機関で共有するとともに、今後の取組に向けた意見交換を行いました。

IPMの現地検討では、化学合成農薬の使用回数の軽減を図ることができた実証結果について、取り組んだ生産者による説明も交えて振り返り、これまでの成果と課題を整理しました。

また、産地表示販売の検討では、支援を行った地元の関係機関からも産地PR活動の紹介や今後の取組に向けた提案もあり、地域内で連携して特産品を盛り上げていこうとする様子がうかがえました。

これらの取組は地域への定着が期待されるものであることから、普及センターでは今後も支援を行っていきます。



○スナックえんどう栽培講習会を開催しました 令和4年10月31日 栗原農業改良普及センター

令和4年10月20日(木)、JA新みやぎの瀬峰野菜集荷場及び尾松支店会議室で、JA新みやぎ栗っこスナックえんどう部会の栽培講習会が開催され、同部会員16名と、種苗会社及び普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、種苗会社より、これからの播種に向けたスナックえんどうの栽培管理方法について説明がありました。つぎに、普及センターより、病虫害防除のポイントとして、主要病虫害の特徴についての説明や、防除効果が高い農薬の説明を行いました。また、適切な施肥設計を行うために、土壌分析の活用を推奨しました。

参加者は、スナックえんどうの栽培管理や病虫害防除についての知識を深めたようでした。普及センターでは、今後も栽培技術の向上に向けた支援を継続していきます。



⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて県代表牛の最終集合指導会が開催されました

令和4年10月3日
美里農業改良普及センター

10月6日から10日に開催される第12回全国

和牛能力共進会鹿児島大会への出品に向け、最後の代表牛集合指導会が9月27日にみどりの和牛育種組合主催で開催されました。

今回の指導会では正姿勢維持の練習だけではなく、牛の毛刈りを行い、県代表牛としてきちんと身なりを整えました。出品者・補助員・指導員ともに、上位入賞への気合いの高まりが感じられました。

美里普及センター管内からは、第3区(若雌の2・单品区)に後上藤三氏の「ぶらふまん号」、第5区(高等登録群)に浜田政美氏の「ゆりひめ号」「さくらひめ号」と菅原正博氏の「ひめふく号」、第8区(去勢肥育牛・单品区)に菅野豊博氏の「朝洋美号」、特別区(高校及び農業大専科・单品区)に小牛田農林高等学校の「わさび号」が出品されます。

みなさま、応援をよろしくお願いいたします。



○飼料用とうもろこしの収量調査を行いました 令和4年10月6日 栗原農業改良普及センター

令和4年9月26日(月)、栗原市志波姫地区の飼料用とうもろこし実証展示ほで展示栽培してきた飼料用とうもろこしの収量調査を行いました。

飼料用とうもろこしは、デントコーンとも呼ばれ、栄養価および収量が高い飼料作物で、多様な特性を持った品種が数多く市販されています。また、品種改良のスピードが早いことから、各地域や各畜産農家のニーズに合った品種を確認することが必要であり、栗原農業改良普及センターでは、毎年、生育状況や収量を検証するため、品種比較や栽培様式の違いによる実証展示ほを設置しています。

今年は、7月下旬から8月上旬にかけての天候不順

及び湿害により生育が停滞したことで、全体的に収量は前年よりも減少しました。

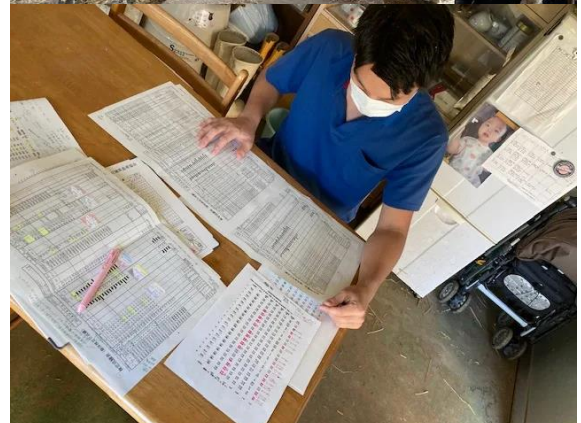
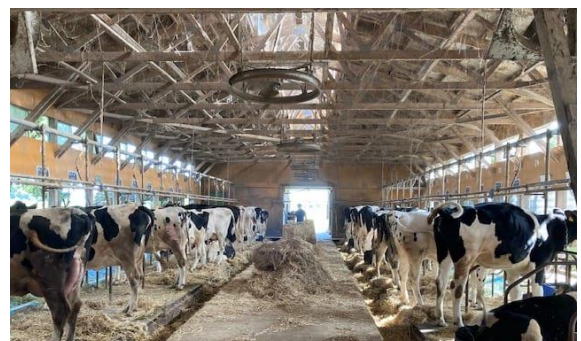
しかし、昨年、穿孔暗渠機「カットドレーン」を用いて排水対策を実施したほ場は、他のほ場よりも草丈が高く、湿害の影響を低く抑えることが出来ました。

ほ場主からは、「飼料高騰が続いており、自給飼料の生産性を改善する必要がある。来年に向けて排水対策の強化を進めていきたい。」との声がありました。

普及センターでは、ほ場の土壌分析を行い、肥料コストの低減や栽培技術の向上に向けて、今後も継続して支援していきます。



○牛群検定の「お試し検定」をサポートしています 令和4年10月7日 登米農業改良普及センター



登米管内では 6 戸の酪農家が牛群検定に加入しています。牛群検定とは専門の検定員が毎月 1 回酪農家を訪問し、牛 1 頭毎の乳量や乳成分、繁殖の状況等について調査するものです。酪農家は調査の結果を飼養衛生管理や経営の改善に役立てることが出来ます。普及センターでは月 1 回程度酪農家を訪問し、調査の結果がまとめられた牛群検定成績表や牛を見ながら、飼養管理状況の確認や改善策の検討等を行っています。

管内では 9 月から 1 戸の酪農家が、牛群検定の「お試し検定」(6 か月の無料体験)に取り組んでいます。初めて成績表を手にした酪農家からは、牛 1 頭毎の乳質がわかるので栄養状態等の確認ができてとても助かるとの感想をいただきました。一方、成績表からはいくつか問題点も見えたことから、飼養管理や繁殖管理等の改善について一緒に検討しました。

今後も普及センターでは牛群検定の活用や成績表の見方等をサポートしていきます。

○農事組合法人うえずとファーム仙台による先進地研修

令和4年 10 月 12 日

仙台農業改良普及センター

仙台市西部の倉内・大針地区では、平成 29 年度より農業競争力強化農地整備事業(経営体育成型)による農地整備事業を進めています。令和 3 年 2 月には、中心経営体として「農事組合法人うえずとファーム仙台」(以下：うえずとファーム仙台)が設立されました。令和 4 年 11 月から面工事が始まり、令和 5 年の春から法人としての水稻栽培が始まります。

本格的な土地利用型経営開始を前に、9 月 2 日(金)に美里町の「農事組合法人みらいす青生」(以下：みらいす青生)を視察し、先進的な取組を学びました。

みらいす青生は、平成 16 年度に県営ほ場整備事業の採択を契機に、平成 19 年度に松ヶ崎集落営農組合を設立し、平成 26 年 1 月に法人化しています。また、平成 21 年度より地下かんがいシステム(FOEAS)を有効に利用し、高収益作物として、ブロッコリーやトウモロコシの栽培等を行っています。トウモロコシは、ほ場近くで採れたてを茹でて販売しており、今では、美里町の名物として年々販売量を増やしています。このような高収益作物栽培の取組の他に、主力メンバーには、会社員並みの所得を補償することで経営の継続性を高めていることや草刈り作業を地域の高齢者等に委託し、地域との関連性を深めていることなど土地利用型経営のポイントについて説明を受けました。

視察したうえずとファーム仙台の理事の方々は、地域との関係や高収益作物の栽培への取組など多くの点が参考になったようですが、みらいす青生のような立派な経営が将来できるか心配だとの声も聞かれました。

仙台農業改良普及センターとしては、うえずとファーム仙台が 10 年後には同じような経営ができるように支援していく予定です。



⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「金のいぶき」収穫前の現地検討会を開催しました

令和4年 10 月 7 日

美里農業改良普及センター

玄米用品種「金のいぶき」は、消費者の健康志向もあり、年々需要が拡大している品種です。涌谷町では、町の特産品として「金のいぶき」の作付を推進しており、令和 4 年度は約 8.2 ha と前年の 2 倍以上増加しており、生産者 30 名のうち 11 名が今年度初めての栽培者です。

令和 4 年度は、涌谷町、JA 新みやぎ涌谷営農センターの協力のもと、6 か所の展示ほを設置し、生育調査や現地検討会の開催等の技術支援を行っています。

9 月 20 日には、展示ほ 2 か所を会場に収穫前の現地検討会を行い、涌谷町内の栽培者約 20 名が出席しました。普及センターからは、出穂期から見た刈取適期や、ほ場内の籾の登熟状況について説明し、うち 1 か所は籾がかなり黄色くなっていることから、まもなく収穫適期に入ることを説明しました。

まとめとして、「金のいぶきは他の品種より登熟のばらつきが大きい。品質を低下させないためには、出穂期から50日を過ぎたら、青い籾が残っていても収穫を行った方がよい。」ということをお伝えし、生産者も収穫適期について理解を深めたようでした。今後、展示ほの収量や品質を調査、分析し、生産者の栽培技術向上に向け、引き続き助言を行ってまいります。



**○蔵の華の適期刈り取り研修会を開催しました
令和4年10月7日
気仙沼農業改良普及センター**



令和4年9月9日、気仙沼市廿一地区で、酒米の栽培を行う清流「蔵の華」廿一会を対象に、刈り取り時期を確認する研修会を行いました。

6月28日、7月26日の研修会に引き続き、会員のほ場を相互に巡回し、生育状況を確認しながら、適期収穫時期を予測しました。いずれの会員のほ場も登熟は順調に進んでおり、穂の熟色や気温の推移を見ながら、品質確保に向け各ほ場の刈り取り時期を見極めました。

栽培した「蔵の華」は市内の蔵元2社に出荷されます。今年は、過去の振り返りをもとに、さらに栽培管理を洗練させ、順調な生育を保つことができたことから、秋以降の醸造に向け、期待が高まっています。

**○南三陸米の新米出荷が始まりました。
令和4年10月12日
気仙沼農業改良普及センター**

令和4年9月28日、「南三陸米」の新米出発式が開催されました。

「南三陸米」は、気仙沼市、南三陸町、登米市津山町産の「ひとめぼれ」のうち、一等米で栽培履歴が確認された当地域のブランド米です。

近年、高温や大雨など、作物の栽培に不利な気象が頻発しています。今年も気温の乱高下、7月の大雨や日照不足など、水稻栽培には厳しい気象条件でした。そのような条件下でも、農家の皆様の丁寧な栽培管理により、高品質な南三陸米になっています。

サンマやカツオなど、三陸の海の幸と並ぶ秋の味覚として、今年も南三陸米のおいしい新米を是非ご賞味ください。



**○大崎市「ささ結」新米試食会が開催される
令和4年10月26日
大崎農業改良普及センター**

令和4年9月28日(水)に、大崎市古川にある祥雲閣を会場に、大崎の米「ささ結」ブランドコンソーシアム(大崎市が中心となり、生産、流通、加

工、販売関係者、行政機関等で構成)による新米試食会が開催され、18人が出席しました。

“ささ結”は、東北194号(品種名)のうち、環境配慮や一定の品質基準をクリアしたお米だけに使われる商標登録。当コンソーシアムでは、ブランド価値の向上と地域活性化に向け、首都圏での販売促進や市内飲食店での提供、品質・食味審査会などを積極的に展開しており、試食会はこれら取組の一環として催されたものです。

出席者からは、お米の上々な出来栄えに生産者を称えとともに、とても美味しく仕上がっており自信をもって販売・PRできる、などの声が聞かれました。

○宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会で10点が入賞しました 令和4年10月31日 巨理農業改良普及センター

令和4年10月22日(土)～10月23日(日)にせんだい農業園芸センターで令和4年度宮城県農林産物品評会及び宮城県花き品評会が開催され、県内から多くの出品がされました。当日は天候にも恵まれ、会場では多くの来場者が見学されていました。

当普及センター管内では、花き品評会で切り花(バラ)が農林水産大臣賞を受賞するなど、農林産物品評会で4点、花き品評会で6点が入賞しました。受賞された方をはじめ、品評会に御協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

普及センターでは、今後も高品質な農産物の生産に向けて技術指導を行っていきます。



○令和4年度農林産物品評会が開催されました 令和4年10月31日 農業振興課

令和4年10月22日～23日にせんだい農業園芸センターにて、県内農林産物の生産振興を図ることを目的に、農林産物品評会および花き品評会を開催しました。出品された農林産物のうち、各部門で最も優れたものに農林水産大臣賞が授与され、受賞農作物を含めた県内各地の農産物を展示いたしました。今年度の農林水産大臣賞受賞者は以下の方達になります。

令和4年度宮城県農林産物品評会 農林水産大臣賞
農産部門：水稲(うるち玄米) 栗原市 有限会社 狩野農友
園芸(果実)部門：日本なし 蔵王町 山家 一彦 氏
園芸(野菜)部門：ねぎ 石巻市 後藤 喜久雄 氏

令和4年度宮城県花き品評会 農林水産大臣賞
花き部門：バラ 丹野こずえ 氏

なお、農産部門：水稲(うるち玄米)で農林水産大臣賞を受賞した有限会社狩野農友は、翌年度の新嘗祭献穀を行う予定です。



⑦地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○実りの秋を迎えた田んぼアート！
令和4年10月12日
気仙沼農業改良普及センター

南三陸町志津川地区の廻館営農組合では、今年で5回目となる田んぼアートに取り組んでおり、5月に行った田植えの様子は、当ブログ（どんなアートになるか楽しみです。）でも紹介しました。

その稲刈りが令和4年10月2日に行われ、秋晴れの下、約40名の親子連れや高校生のグループ等が参加しました。田んぼアートは、南三陸町のマスコットキャラクター「オクトパス君」と「南三陸」の文字が描かれ、無事、稲刈りを迎えることができました。稲刈り参加者の中には、初めて稲刈りをするお子さんもいましたが、自分と同じくらいに伸びた草丈の稲を1株1株丁寧に刈り取り、「こんなに刈ったよ！」と自慢していました。

稲刈り終了後、新米のおにぎりと豚汁が振る舞われ、参加者は、お腹も心も満たされて、笑顔があふれていました。



○秋保野尻地区で長ねぎの収穫体験が行われました

令和4年10月18日
仙台農業改良普及センター

仙台市秋保野尻地区（以下：野尻地区）では、「仙台市農業法人等収益向上支援事業」を活用し、長ねぎとニンニクの栽培に取り組んでいます。また、長ねぎは、当地区で進められている農地中間管理機構関連農地整備事業要件の高収益作物として栽培される計画にもなっています。今回、その長ねぎの収穫体験が10月9日（日）に試験的に行われました。

当日は「秋保かわら版」等でPRしていたものの、肌寒く、天候も曇りでしたが30名ほどの参加者があり、袋いっぱい詰めた長ねぎの収穫に満足し、さら

に暖かい豚汁と焼きねぎのお振舞いに感激していました。「来年もまた参加したい」との声が多く出されていきました。未収穫の長ねぎは、JAや直売所等を通じて販売するとのことです。

今回の経験を基に、野尻地区では次年度の作付けやイベントを検討したいとのことでした。

普及センターでは、今後も野尻地区の高収益作物栽培を支援していきます。



○気仙沼大島ウエルカムターミナル産地直売所で勉強会が開始されました

令和4年10月26日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年10月20日、気仙沼大島ウエルカムターミナル（産地直売所）に関する勉強会&ワークショップが開催されました。

当日は、勉強会の講師として有限会社ベネットの青木代表取締役、ワークショップのファシリテーターとして株式会社東北農都総合研究所の片岡代表取締役をお招きし、出荷者13名、市担当者1名、県関係者6名が参加しました。

気仙沼大島ウエルカムターミナルは令和2年4月にオープンした観光交流施設ですが、建物内に地元農林水産物及び加工品等を販売している産地直売所が併設されています。

昨年度気仙沼大島がテレビドラマの舞台となったことから、観光客及び購買者が増えたものの、放送

終了後から徐々に客足が減少しており、さらに冬場の来館者減少による売上げの減少が顕著であることから、全国の道の駅や農産物直売所の支援を行った実績のある青木氏から経営改善、売上げ向上に向けたアドバイスをいただきました。

また、勉強会後は、ワークショップを行い参加者から、現状の問題点や他の道の駅のいいところなどを出し合い改善の道筋を模索しました。

ワークショップによる意見のとりまとめはできませんでしたが、参加者からは「もっと賑わいが欲しい」、「新鮮な農産物を揃えたい」、「大島らしさを出したい」など経営改善に関する意見が多数出されました。

数多く出された意見をうまくまとめながら、今後も気仙沼大島ウェルカムターミナルの経営改善を支援していきます。

○えごまの生育調査を行いました

令和4年 10月 28日

大崎農業改良普及センター



令和4年10月14日に、色麻町の特産品である「えごま」の生育調査を行いました。えごまの生育調査は、色麻町えごま栽培推進協議会の事業の一環として、生育状況を把握するために、毎年2回ほど行っています。色麻町役場職員と普及センター職員が町内3か所に設置した調査ほ場にて、草丈、節数を測定し、順調に生育しているほ場が多くみられました。生育調査の後、15日からオペレーター組織によるえごまの刈り取りが行われました。

普及センターでは今後も色麻町の特産品である「えごま」の生産振興に向けて支援を行っていきます。

⑧環境に配慮した持続可能な農業生産

○水稲ペースト2段施肥の検討会が開催されました

令和4年 10月 12日

気仙沼農業改良普及センター

令和4年10月7日、気仙沼市階上の農業法人、「株式会社階上生産組合」の水田を会場に、JA新み

やぎ主催による水稲ペースト2段施肥の検討会が開催されました。

本技術は、肥料利用効率の高い緩効性肥料（プラスチック資材による被覆肥料）を配合した複合肥料が、河川を通じて海洋に流出することを避けるため、ペースト状の肥料を移植時に2つの異なる深さ（上段5cm、下段12cmなど）で2段施肥することにより、緩効性肥料と同様に肥料の効果が現れる時期を調節するものです。

収穫期を迎えたほ場は、慣行の栽培方法と比較しても遜色なく、さらに施肥量を削減した区においても、良好な生育がみられました。同社社長の佐藤美千夫氏からも「ほ場を見た感じ、これまでの栽培法と同等以上によく、今後収量・品質を確認するのが楽しみ」との評価でした。

今後は収量・品質に関する詳細な調査と検討会がJA主導で行われ、当普及センターも協力していく予定です。



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

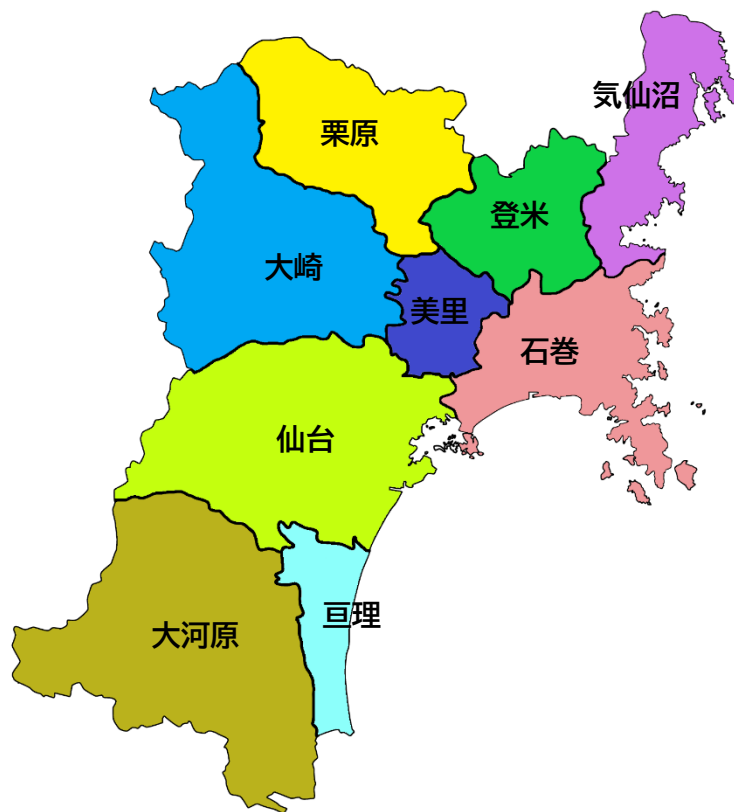
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.189

発行日:2022年11月18日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp